

令和元年12月27日

会員各位
令和2年1月1日
2020年頭のご挨拶

会長 安田 豊*

新年あけましておめでとうございます。
会員各社の皆様並びに関係各位におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。令和になって最初の新年を迎えるにあたり、年頭のご挨拶を申し上げます。



去年は、相場格言では「亥固まる」と云われ、前年の戌年に始まる好景気が固まり安定する年と言われておりました。日経平均株価をみますと、年初に19,500円台で始まった株価は、乱高下を繰り返しながらも、足元で24,000円台を付けており、見方によっては好景気と言えるかもしれません。会員各社の皆様におかれましては、どのような一年だったでしょうか？

国内では御代替りがあり、元号が平成から令和に代わる等、新しい時代の始まりを感じさせる出来事があった一方で、9月の台風15号と11月の台風19号及び21号では、東日本を中心に土砂崩れと河川の氾濫により多くの方々が被災された年でもありました。被災された方々や地域に思いをはせると共に、一日も早い復興を祈らずにはおれません。一方、スポーツ界では、ラグビーのワールドカップが日本で開催され、日本代表チームが史上初のベスト8に進出する等、大いに盛り上がりました。日本代表チームのスローガン「one team」は流行語大賞にも輝きました。

国際情勢に目を向けてみますと、既に世界経済にも深刻な影響を及ぼしている米中貿易問題については制裁と報復が繰り返され、予断を許さない状況が続いています。それ以外にも、日韓関係の冷え込みや香港における民主化要求のデモ等、不透明感が続いている状況にあります。

さて、今年の子年。相場格言では「子は繁盛」と云われ、子宝に恵まれ、商売にも縁起の良い年だとされておりますが、新しい年はどのような年になるのでしょうか？

産業界では、自動車の電動化・自動運転化の動きは前年にも増して強まっており、関連する業界では電池やレアメタルといった資源への注目度が益々高まっております。一方で、中国における環境規制とスクラップ輸入停止の動きは引き続き強化されてきており、輸入禁止となる廃棄物の品目は増加しています。そのため、当協会の会員各社が担っている産業の重要性は従前にも増して高まっているものと確信しています。資源に乏しい我が国においては、資源の有効

活用が重要であり、リサイクル分野では経済合理性を担保出来る技術開発や協業等による新たな仕組み構築が喫緊の課題であります。IoT（モノのインターネット）、AI（人工知能）等の新技術が、ビッグデータを活用した効率化や高速化、省人化等を推進する原動力となり、あらゆる産業においてビジネスモデルや業界構造の変革が起こりつつあります。これらの新技術を用いてリサイクル分野では「収集運搬の効率化」、「解体選別の自動化・効率化」、「プラントの操業・保全の最適化」等への活用が大いに期待出来ます。

当協会では、少しでも会員各社の事業の取り組みのお役に立てるよう専心努力して参る所存ですので、是非とも関係ご当局並びに会員各社の皆様方には、当協会の活動に一層のご指導・ご支援を賜りますよう改めてお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員各社のますますのご発展と、関係各位ならびにご家族のご多幸、ご健勝を祈念致しまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

※ J X金属(株) 執行役員 環境リサイクル事業部長

協会だよりー0201(1月号)

2・【トピックス】:

- 第5回運営委員会・懇親会の開催
日時：2020年1月17日(金) 16:00-17:00
場所：堺化学工業(株)東京支店 会議室
議題：①第243回月例会・新年会 ②その他今後の予定など
- 第243回月例会(講演・新年会)の開催
日時：2020年2月7日(金) 15:30-20:00
場所：如水会館 2階オリオンルーム(講演) 3階松風の間(新年会)
- 2019年各分野の実績報告 1月末納期
- エー・アンド・エイチ・ジャパン(株)が「正会員」として新規加入



- 一. 協会よりのお知らせ
- 二. 「トピックス」
- 三. 「実施済事項」
- 四. 「予定事項」
- 五. 「その他・会員情報」
- 六. 「事務局より(1月度の予定)」
- 七. 「故郷・上田について」 市村光志

JCRA (Japan Catalyst Recovering Association)
触媒資源化協会

3. 【実施済事項】

- ① 協会だより0012月(12月号)をHPに更新・各会員並びにOB各位に配信
- ② 【会員専用HPの更新】●11月度の経費明細
- ③ 資源化協会2019年実績記入用紙(新フォーム)のメール配信
- ④ 第243回月例会の案内

4. 【予定事項】

- ① 協会だより0202（2号）の発行
- ② 会員HPの更新
- ③ 第5回運営委員会・懇親会の開催 令和2年1月17日
- ④ 2019年実績データの集計
- ⑤ 第243回月例会の出席確認

5. 【その他・会員情報】

- エー・アンド・エイチ・ジャパン株式会社（A&H Japan；大阪在住）が「正会員」として12月に新規加入されました。協会担当者：大場太祐様
d-oba@ahj.jp, URL:<http://ahjapan.com>

- IRUNIVERSEより耳寄りな話がありますのでお知らせします。

1月30日 先月ノーベル化学賞を受賞しました吉野彰先生の講演会が実施されます。他2月7日に当協会にて講演される原田幸明氏も登壇します。詳細は下記URLを参照して下さい。尚当会員は事前登録しますと会員価格にて参加可能とのことです。

- ・ [ノーベル化学賞受賞/吉野彰先生ご登壇「Battery Summit2020」\(1/30\)開催](#)

6 . 事務局（1月度の出勤予定）

出勤予定●：8日間

日	月	火	水	木	金	土
			1/01	1/02	1/03	1/04
1/05	1/06	1/07	1/08	1/09	1/10	1/11
		●		●		
1/12	1/13	1/14	1/15	1/16	1/17	1/18
				●	●	
1/19	1/20	1/21	1/22	1/23	1/24	1/25
		●		●		
1/26	1/27	1/28	1/29	1/30	1/31	2/01
		●			●	

（文責：専務理事）

【信州上田とはどんなところ？】

シリーズ第三回

1. 人物編

1-3：赤松小三郎（あかまつ こさぶろう）

1-4；加舎白雄（かや しらお）

1-3）赤松小三郎（あかまつ こさぶろう）

1831年上田の木町に生まれました。坂本龍馬とほぼ同じ時期に活躍しました。残念ながら明治維新直前に凶刃に倒れましたが、近代政治に通ずる議会政治を提言した上田藩士です。

昨年京都で開催されました“明治維新150周年記念シンポジウム”に西郷隆盛等に加え、赤松小三郎も取り上げられました。

小三郎は青年時代勝海舟の下で学び、その才能を認められて長崎の海軍伝習所に入り航海術・兵学・蘭学などを習得しました。江戸に戻った小三郎は蘭語で書かれた「英国歩兵練法」を翻訳し出版しました。我国の近代兵制の基礎がこの本により築かれたと言われています。

例えば、“気を付け！”“前へすすめ！”“止まれ！”“などなど。

小学校の頃私どもが運動会などで先生から言われた号令は、実はこの小三郎の功績だったのです。



更に小三郎の功績で最も顕著なのは、1867年公武合体論者の越前藩主松平春嶽に対して提出した**幕政改革に関する意見書**です。

1. 選挙によって選ばれた上下二局の選挙で選ばれた代表者による議会。上局は凡そ30人、下局は百三十人を選ぶ事。

2. その議会で決議の上、朝廷に申し立てる事。もし朝廷の許可が得られない時は議会にて再度議決しそのまま国中に布告する。等々

その他詳細に亘って記載されその意見書は現存しています。まさに近代日本が歩んだ内容に近いものとなっています。先見の明があったと言えるのではないでしょうか。

しかし明治維新直前1867年9月京都において、弟子の一人である薩摩藩士桐野利秋らによって暗殺されてしまいます。37歳の若さでした。

もし小三郎が存命であれば、明治新政府に入りどれだけの大仕事をしてくれたかと思うと残念です。

小三郎の弟子であり、日露戦争でロシア海軍を破った事で知られている海軍大将東郷平八郎が後に上田に来たとき揮毫した石碑が残されています。

（東郷平八郎が揮毫した石碑：贈従五位赤松小三郎君之碑：上田城跡公園内）



1-4) 加舎白雄（かや しらお）

1738年江戸深川に生まれました。父は上田藩士でその家を白雄は終生自分の故郷と呼んでいました。今その場所に石柱が立てられています。

（加舎家跡の石碑：上田城跡公園前の二の丸散策道）



今でこそ俳句の神様（俳聖）と言えれば松尾芭蕉という事になっておりますが、江戸時代中期（1791年）に芭蕉が亡くなった後、ほぼ半世紀に亘り芭蕉の事は世間から忘れられていました。

その芭蕉の素晴らしさを再発見したのは白雄の師匠である白井鳥酔でした。その師匠のもとで学んだ白雄は、芭蕉の句の素晴らしさを自分の弟子約4千人に伝え全国に広めました。そのお陰で今では俳句と言えはまず“芭蕉”と言われるようになったのです。

芭蕉の名前を広めた功績で白雄は江戸時代の天明中興俳壇の五傑の一人として称えられています。皆様ご存知の与謝蕪村もこの一人です。

ではここで芭蕉の一句



“古池や 蛙飛び込む 水の音”

この一句が出来た背景をお伝えします。

ある時弟子が芭蕉に質問します。“先生ここに一首和歌があります。先生でしたらこれをどのように詠まれますか？”と。

「けなげなや 住む所なき濁り江に 我住まわじと蛙飛び込む」

そこで芭蕉が詠んだ句が上記の句です。人の行動も同じで、他人がいやがる事に自ら勢いよく（ポチャーンと）飛び込んで事を成し遂げる気構えを詠んだものと思われま

す。白雄の功績を引き継ぎ今でも菩提寺である大輪寺（上田市新田）において、毎年俳句の全国大会が開かれています。今年も沢山の作品が寄せられました。皆様も参加して頂いたらいかがでしょうか？

この他上田出身で大きな仕事を成し遂げた人は多数おられます。紙面の都合上簡単なコメントのみ紹介させていただきます。

ハリー・K・シゲタ(1887-1963) : 国際商業写真家。シカゴのモップフェルト・スタジオ責任者としてアメリカで活躍。

久米正雄(1891-1952) : 小説家・戯曲家。「父の死」でデビュー。

中村直人 (なおんど) (1905-1981) : 彫刻家・画家。スケールの大きな作品多数。

半田孝淳 (こうじゅん) (1917-2015) : 第 256 世天台座主。上田別所温泉にある小さなお寺常楽寺から天台宗のトップに。世界平和運動に貢献。



(別所温泉にある常楽寺)

次回よりは、これらの人を育くんだ上田の風土・歴史などをお伝えします。

文責 (市村) 以上